しらかば

2026年度秋号　第74号

北海道社会福祉協議会

北海道中国帰国者支援・交流センター　〒060-0002　札幌市中央区北２条西７丁目一番地かでる２・７

電話 011-252-3411　FAX011-252-3412　URL: http://www.hokkaido-sien-center.jp/　E-mail: hokkaidocenter@dosyakyo.or.jp

文化交流会

わいわい楽しく和菓子づくり







9月28日、文化交流会を開催し、33名の帰国者のみなさんが和菓子づくりに挑戦しました。今回のメニューは「きなこねじり」と「フルーツ大福」。どちらも火を使わず、手軽に作ることができるレシピです。帰国者のみなさんの中には、小豆あんやきな粉を食べたことはあっても、実際に調理するのは初めてという方も。きな粉がなかなかまとまらなかったり、白玉粉の生地の扱いに苦戦しつつも、にぎやかに楽しく作業は進められました。最後は、出来上がった和菓子を味わいながら、交流のひとときを過ごしました。

～きなこねじり～

はちみつを電子レンジで温め、きな粉を加えてよく混ぜます。生地をまとめて形を整え、細長く切って、仕上げにきな粉をまぶします。

～フルーツ大福～

好みのフルーツを包んだあんを、白玉粉・砂糖・水を混ぜて電子レンジで加熱した生地で包み、形を整えます。







就職援助事業

職業訓練見学会に行ってきました！



7月23日に職業訓練見学会が開催され、私たちは2カ所の施設を訪問しました。就職に必要な知識や技術を身につけるための制度があること、また日本の就職事情についても知ることができました。

美容師になるための学び

最初に訪問したのは、認定職業訓練校の札幌ビューティックアカデミー。理・美容師を養成する学校です。この日は昼間課程一年生がシャンプーの実技に取り組んでいたほか、通信課程では国家試験に向けた授業が行われていました。授業をひととおり見学した後は、同校のカリキュラムや国家試験科目について説明を受けました。美容師になるまでの過程や就職事情は日本とロシアで異なる点もあり、それぞれの国の制度や働き方について知る機会にもなりました。



介護の仕事を目指す人たち

次に訪問したのは鹿光学習センターです。ここでは求職者支援訓練が行われています。私たちが見学した「介護福祉実務科」は、介護職員の実践的な知識と技術を学ぶためのコースです。人数は9名、30代～50代までの幅広い年代の訓練生が、この日は車椅子の扱い方を学んでいました。

介護職を志す人には、家族を介護した経験がきっかけとなった人が多いそうです。今回、訓練生のひとりに直接お話を聞くことができましたが、母親を亡くし、97歳になる父親が施設に入所したことなどがきっかけとなり、高齢者の方々を笑顔にしたいとの思いが芽生え、求職者支援訓練に応募したと話してくれました。

一方で、やはり介護職は待遇の改善が問題となっており、現場では人手不足が続いていることも教えてもらいました。技術を学ぶ機会だけでなく、働き続ける環境も大切なのだと感じました。



見学会を終えて…

今回の見学会では、職業訓練を通して新しい知識や技術を身につけ、仕事につなげていく過程を見ることができました。また、実際に訓練を受ける人たちのお話からは、それぞれの思いや仕事に向き合う姿勢も伝わってきました。

日本とロシアでは、職業訓練の制度や就職事情に違いがあります。それぞれの国の制度を知ることは、働くことについて改めて考えるきっかけにもなりました。

病名の向こう側にあるもの



～医療通訳者と患者それぞれの役割～

前号で医療通訳者へのインタビューを掲載しました。その際に伺った病名に関する興味深いお話をもとに、改めて医療通訳者と通訳をしてもらう患者、それぞれの役割について考えてみたいと思います。

ひとつの病気にも様々な呼び方があります。「五十肩」「水虫」「ものもらい」といった表現を、私たちは普段何気なく使っていますが、それらが必ずしも正式な病名とは限りません。病名には地域による呼び方、昔からの呼び方、俗称などがあります。ひとつの病気をどう呼ぶのか、そこには病気の原因と考えられているもの、病気に対するイメージ、その病気にまつわる迷信など、病気に関する文化的な背景があると言えます。これはどの言語においても言えることです。

札幌東徳州会病院のロシア語医療通訳者川崎マリアンナさんは、「ロシア語のстенокардия（狭心症）には、『грудная жаба（胸のヒキガエル）』という古い呼び名があります。また、『туберкулёз лёгких（肺結核）』は、かつては『чахотка』と呼ばれていたこともありました。現在では日常的に使われることはほとんどありませんが、このような俗称などの表現を理解しておくことは、患者さんの訴えを正確に把握するうえでとても重要です」と言います。

なぜ狭心症を「胸のヒキガエル」と表現するのか、調べたところ、大きく分けて2つの説があります。ひとつは胸が締め付けられるような痛みが起こって呼吸があらくなる様子がカエルを連想させる、というもの、もうひとつは、魔女がヒキガエルに変身して夜中に人の胸の上に座り、病気を引き起こすという言い伝えによるもの。このように、特定の文化が背景にある場合もあれば、国を超えて、病気の症状に基づく共通したイメージが表れている場合もあります。肺結核を表す古い俗称「чахотка」の語源は「やせ衰える」という意味の言葉ですが、日本でも結核のことを昔は労咳とか肺労と呼んでおり、「労」という漢字はやはり「やせ衰える」という意味を持っています。

また比較的広義な言葉が特定の症状、特定の病気を表す際に使われる場合もあります。同じく札幌東徳州会病院の中国語医療通訳者の何青さんによると、「一番代表的なのは『上火』という言葉」だそうです。「ストレスや疲れが溜まった時、炎症が起きた時、ニキビや口内炎ができた時など、非常に多くの場面で使われます。医療の現場では、患者様が言う『上火』という言葉の裏にある「具体的な症状や原因」を丁寧に掘り起こさないと、正しい通訳ができません」。

このように見ていくと、医療通訳者の役割が単に言葉を訳すばかりではない、ということがよくわかります。求められているのは「正確な訳」というよりも、「正確な意思疎通」であると言えます。必要に応じて具体的な症状を確認し、患者と医療者の双方が理解できるよう橋渡しをすること、これが医療通訳者の重要な役割です。

だからこそ通訳してもらう側も自分の使っている表現や言葉が、実際の症状を正しく伝えているのか、振り返ってみる必要があります。通訳者だけでは医療者との正確な意思疎通は成り立ちません。頭が痛いのであれば、いつから、どこが、どのように痛むのかなど、できるだけ具体的に症状を伝えることが大切です。

病気の治療は、一度の診察で完結するとは限らず、継続して通院することもあれば、別の医療機関を受診することもあります。もし医師の説明でわからないことがあれば、その場で質問する、病名や薬の名前、治療方針など、今後の受診に必要な情報をメモしておくなど、患者自身も主体的に関わることが、より適切な診療へとつながります。通訳者の助けを借りながら、自分の身体と向き合い、病気について理解を深めていく。その積み重ねが、健康を守ることにもつながるのではないでしょうか。

身近な病気の日常名と正式な医学名（日・中・露比較）

日本語の日常名	日本語の医学名	中国語の日常名	中国語の医学名	ロシア語の日常名	ロシア語の医学名
① ものもらい	麦粒腫（ばくりゅうしゅ）	针眼	麦粒肿	ячмень	гордеолум
② ぎっくり腰	急性腰痛症（※）	闪了腰	急性腰扭伤	прострел в пояснице	люмбаго
③ 寝違え	急性頸部痛（※）	落枕	急性颈部肌肉筋膜损伤	шею продуло／неудачно повернул шею	острая цервикалгия
④ ニキビ	尋常性痤瘡（じんじょうせいざそう）	青春痘	痤疮	прыщи	акне
⑤ 口内炎	口腔粘膜炎・アフタ性口内炎など	口腔溃疡	口腔黏膜溃疡	язвочка во рту	афтозный стоматит（アフタ性の場合）
⑥ 五十肩	肩関節周囲炎（※）	五十肩／肩周炎	肩周炎	замороженное плечо	адгезивный капсулит плечевого сустава

※「正式名称」は、必ずしも一つに決まっているわけではありません。特に、ぎっくり腰・寝違え・五十肩は、診察結果や原因によって医学的な診断名が変わります。

北海道マラソンにボランティア参加

８月30日に開催された北海道マラソンに、中国帰国者の齊藤英芳さん、佐藤秋恵さんの二人が給水ボランティアとして参加しました。「人との交流が何よりも楽しい」とボランティア活動の魅力を語る二人ですが、社会に貢献すると同時に、地域とのつながりを深める機会とすることができました。





編集後記

今年の夏は各地で様々な災害が発生し、厳しい暑さも続きました。秋も深まり、インフルエンザの流行が気になる季節です。健康には十分注意し、一年を振り返ったときには「よい年だった」と思えるような年末となりますように。